


# エーバイシーでは配筋図及び数量計算書一式を作成することができます。

土木工事標準歩掛(国土交通省)や土木工事積算要領(日本下水道事業団)に準じた数量計算マニュアルを作成し、数量計算の標準化や品質確保に努めています。弊社では、配筋図・数量計算書の納品前に品質管理室にて照査業務を行い、お客様へ納品するシステムとなっています。

## 数量計算書内容

躯体数量	付帯数量	鉄筋数量	基礎数量・仮設数量	補強設計の数量
コンクリート工 型枠工 足場工 支保工 etc...	足掛け金物 グレーチング マンホール パイプ・ドレイン etc...	柱梁部材 壁底板部材 増打ち鉄筋 開口補強筋 etc...	土工 土留め工(矢板・支保工・中間杭) 地盤改良(浅層・中層・深層) 杭(場所打ち杭・既製杭) etc...	新設壁・増し打ち壁 撤去工 あと施工アンカー 足場工 鉄筋探査工 支保工 はつり工 付帯工 etc...

### 数量計算/配筋図マニュアル



- わかりやすい数量計算書/配筋図をご提供いたします。
- マニュアルは社員教育や技術伝承など幅広く活用しています。
- 仮設数量のマニュアル化にも着手しています。

※配筋図マニュアルには作図時の注意事項などを記載

#### 3 梁のレベルの確認と記入・修正(1)

参考資料: 軸組図 梁リスト

目的: 柱の天端高さは梁の高さで決まっているため、梁レベルを記入することにより、配筋の範囲を分かりやすくする。

作業ポイント

- ①軸組図で各階の梁レベルを確認する。
- ②必要な梁レベルを作業データに記入する。
- ③梁の天端線が②で記入したレベルに合わない場合は調整する。
- ④斜めの梁場合、梁要素を削除し、梁線を再作図する。

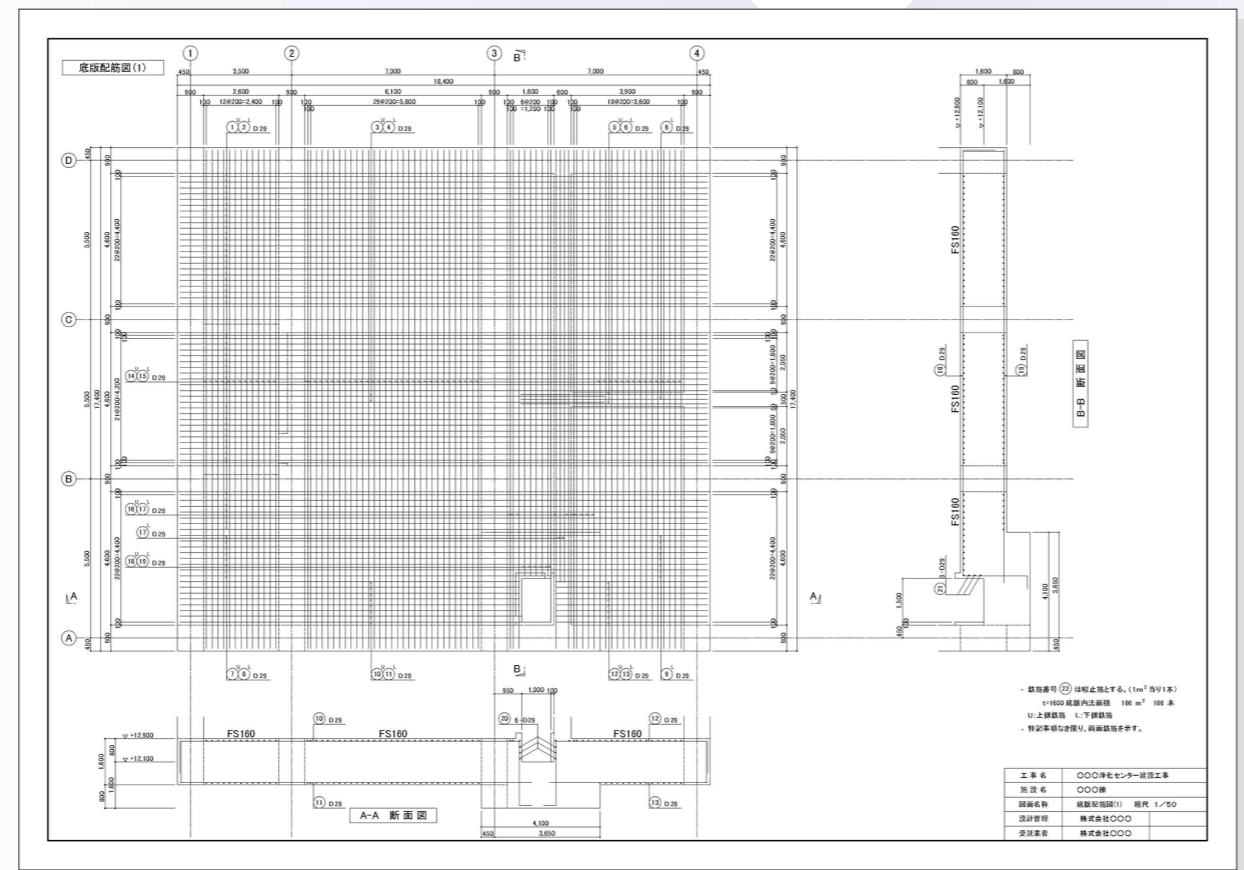
※注意

- 梁筋が柱に定着するため、途中で止めることが出来ない。
- X方向とY方向で梁の高さが異なる場合、高い方に合わせる。

■ 躯体数量総括表

名称	形状寸法	単位	数量	備考
鉄筋コンクリート工		m3	1,407.86	α ck=24N/mm <sup>2</sup>
"		"	-	α ck=18N/mm <sup>2</sup>
無筋コンクリート工		"	63.11	α ck=18N/mm <sup>2</sup>
均しコンクリート工		"	37.67	α ck=18N/mm <sup>2</sup>
型枠工(鉄筋)	一般	m <sup>2</sup>	2,516.41	
"	円形	"	7.16	
型枠工(無筋)	一般	"	4.06	
"	円形	"	-	
型枠工(均しコン)	一般	"	15.16	
"	円形	"	-	
砕石工	t=200	m <sup>2</sup>	48.05	
足場工	枠組足場	掛m <sup>2</sup>	952.56	

■ 例) 底版配筋図



■ 躯体数量計算過程

体積	計算式	数量
①	$v = 18.40 \times 17.40 \times 1.60$	= 512.26 m <sup>3</sup>
②	$v = -1.00 \times 1.50 \times 0.80$	= -1.20 m <sup>3</sup>
③	$v = 4.10 \times 4.10 \times 0.80$	= 13.45 m <sup>3</sup>
V=		524.51 m <sup>3</sup>

一般型枠	計算式	数量
①	$a = 1.60 \times (17.40 \times 2 + 18.40 \times 2)$	= 114.56 m <sup>2</sup>
②	$a = 0.80 \times (1.50 \times 2 + 1.00 \times 2)$	= 4.00 m <sup>2</sup>
③	$a = 0.80 \times 4.10 \times 4$	= 13.12 m <sup>2</sup>
A=		131.68 m <sup>2</sup>